

## 産学官連携推進会議参加報告

The participation report of The Conference for Industry-Government-Academic Cooperation

渡邊 真也, 谷村 勇輔, 上浦 二郎, 吉田 武史, 下坂 久司, 青井桂子, 福永 隆宏

Shinya Watanabe, Yusuke Tanimura, Jiro Kamiura, Takeshi Yoshida, Hisashi Shimosaka, Keiko Aoi, Takahiro Fukunaga

**Abstract:** The Conference for Industry-Government-Academic Cooperation was held at Kyoto International Conference Hall on June 15-16, 2002. Some laboratories took part in this conference from Doshisha University, and ISDL was also one of them. In this report, we show our purpose, what was done, and what was got that we took part in this conference.

### 1 産学官連携推進会議の概要

産学官連携推進会議<sup>1)</sup>は、産学官連携サミット<sup>1)</sup>の成果を踏まえ、産学官連携の飛躍的推進に向けた具体的な課題の解決を目的として開催されたものである。

第一回産学官連携推進会議は、第一線のリーダーや実務者等を中心に研究協議、技術移転、情報交換、対話・交流等を行うために、平成 14 年 6 月 15 日及び 16 日に国立京都国際会館にて開催された。この会議により産学官連携が実質的かつ着実に進展し、新技術・新産業の創出が深化・加速されることが期待されている。

### 2 産学官連携推進会議の内容

産学官連携推進会議は、内閣府などにより主催され、文部科学省や経済産業省などの共催をうけた会議である。

この会議は、大きく会議と展示の二つのパートに分かれて、運営された。

会議の部では、次のような催しが行われた。

- 全体会議  
各界の著名人による基調講演、海外の招待講演者による特別講演、総合科学技術会議による産学官連携プロジェクト報告、分科会の報告が行われる。  
基調講演では、尾身幸次(科学技術政策担当大臣)や中村修二(カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校教授)による講演が行われた。
- 分科会  
主として産学のパネラーにより実務レベルのパネルディスカッション。IT やナノテクノロジー、大学発ベンチャーについてのパネルディスカッションが開催

<sup>1)</sup>第 1 回産学官連携サミットは、平成 13 年 11 月に開催され、次のような共同宣言がなされた。

- 経済再生のためには、研究開発の充実とその成果の活用を通じて産業競争力を強化することが重要
- 「産」「学」「官」は、産学官連携の進展が急務との共通認識に立つ

- エキシビション・セッション  
展示ブースの見学、出展団体等によるワークショップ、無料相談サービス

- 交流会

展示の部では、次のような催しが行われた。

- 展示ブース  
大学・研究機関・TLO<sup>2)</sup>等による研究成果・試作品などの展示、プレゼンテーション、デモンストレーション
- ワークショップ  
出展者による技術紹介をセミナー方式で行う
- 無料相談サービス  
特許アドバイザー、経営コンサルタント、ベンチャーキャピタル・公的金融機関などの専門家による無料の相談

### 3 外部への研究発表の意義

同志社大学もこの会議に参加しており、工学部から以下の研究室が展示ブースへの出展を行った。

- 知的システムデザイン研究室 (知識工学科)
- 超音波エレクトロニクス・応用計測研究室 (電気工学科)
- 構造工学研究室 (機械システム工学科)
- 粉体工学研究室 (物質化学工学科)

研究内容を外部に発表することには、次のような意義がある。

- 研究内容を外部に広くアピールし、多くの人に知ってもら

<sup>2)</sup>Technology Licensing Organization の略。大学等の研究成果を民間へ技術移転することを目的とする

- 外部との意見交換を行い、研究内容の向上を図る

本会議において「外部」は、他大学、産業界、行政などを指す。このため、この会議に参加することで、他の大学や研究所の研究内容や産業界で求められているニーズを知ること、研究の正しい指針を得ることができ、研究成果をアピールできる。

## 4 展示内容

### 4.1 知的システムデザイン研究室

本研究室からは、会議への参加を「宝が池プロジェクト」として行い、主に次の研究内容の展示を行った。

- 分散遺伝的アルゴリズムを用いたディーゼルエンジンの燃料噴射スケジュールの最適化  
株式会社エンジニアス・ジャパン<sup>3</sup>及び近畿大学<sup>4</sup>との共同研究
- 進化的計算によるタンパク質立体構造予測  
岡崎国立共同研究機構分子科学研究所との共同研究
- 知能情報センターの大規模クラスタシステムの紹介  
ビジュアルテクノロジー社から導入された Cambria システム (大規模進化シミュレータ) 及び住商エレクトロニクスから導入された Gregor システム (数値計算サーバ)
- NEC ブレードサーバの展示  
NEC から展示用に貸し出されたブレードサーバ (Fig. 1) の展示

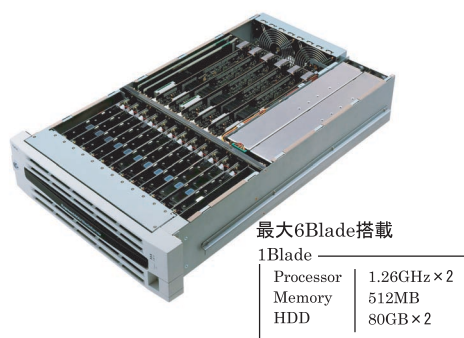


Fig. 1 NEC のブレードサーバ

<sup>3</sup>最適化支援ソフトウェア iSIGHT を開発

<sup>4</sup>ディーゼルエンジンのシミュレーションソフトウェア HIDECS を開発

### 4.2 他の研究室

他の研究室の展示内容を以下に示す。

- 超音波エレクトロニクス・応用計測研究室 (電気工学科)  
超音波骨導ヘッドホン 超音波骨導補聴器に関する研究
- 構造工学研究室 (機械システム工学科)  
竹の有効利用および、竹などの天然繊維を用いた環境適合型複合材料の開発に関する研究
- 粉体工学研究室 (物質化学工学科)  
高速・高画質電子写真システム的设计シミュレーションに関する研究

## 5 発表・展示から得られたこと

産学官連携推進会議では、様々な分野の研究機関や企業から、多くの人の参加があった。その中で研究の発表、展示を行うことで、次のことが得られた。

- 研究の社会的な意義を明確にする必要がある。
- 共同研究を行っている分野への最低限の知識が必要である (例えばエンジンの仕組みなど)。
- 研究分野における他の研究内容の知識が必要である (エンジンの噴射スケジュールの最適化にはどのようなアプローチがあるのか)。
- 現在、どの程度研究が進捗しており、実用レベルに達しているのか。または実用レベルに達するにはどうしたら良いのかを明確にする必要がある。
- GA や SA などの難解な最適化アルゴリズムを説明する場合、うまく要点のみを説明する。また、最適化が必要な理由を明確にする必要がある。
- 研究内容の説明には、分かりやすい図やデモを用いることが有効である。

これらのことは、今回の会議だけではなく、研究内容を発表する際に常に重要になる点だと考えられる。

## 参考文献

### 1) 第一回産学官連携推進会議

{<http://sangakukan.jst.go.jp/>}\  
bibitem{b2}同志社大学リエゾンオフィス\  
\{\url{http://www.doshisha.ac.jp/liaison/}